

子どものミカタ・発達のミカタ

「げんき」では、相談・療育に加え、地域支援や保護者支援などを通じて、周囲の人々が子どもの味方となれるよう子どもの見方・発達の見方をご紹介しています。

成功体験をしつかり積む

年中のAくんは、絵を描いたり、はさみで工作するのが苦手です。おかあさんが、絵を描くように促しても、「ボク、できない」と泣いてしまうこともあります。



そんな時、園の先生が、Aくんの取り組めそうなことを聞きとりながら、Aくんを手伝いお絵描きをしました。そして、完成した絵を見て、Aくんは、「ママにプレゼントしたい」と喜んでいました。おかあさんも、そんなAくんの様子を見て大喜びでした。



お家に帰ってから、おかあさんは、「パパにも見てもらおう」と、リビングの壁にAくんの絵を飾りました。会社から帰ってきたお父さんは、Aくんの絵を見て「よくがんばったね」と褒めてくれました。Aくんはお父さんにも褒められて大満足です。



それから、おかあさんは、先生と同じように手伝いながらAくんとお家でも絵を描くようにしてみました。今では、Aくんは一人で絵を描いて遊ぶときもあります。



解説

子育てに関して、「成功体験を積ませる」とはよく言われるテーマです。成功を体験することで達成感や効力感を得られ、より活動に取り組みたくなります。「好きこそもの上手なれ」とも言いますが、「好きになる」→「楽しく取り組む」→「成功する」→「さらに好きになる」といった好ましいサイクルが成功を体験することで生じるようになります。

また、活動を自身の力で完成、完結させる力をつけることは、子どもの将来にとっても大切なことです。失敗したままでは、何が完成か、どうすれば完結するのかを学ぶことはできません。援助や支援を得ながらも成功することで学べるものがあるのです。

例えば、お片づけを1~10の工程に分け、1~9までお手伝いをして、最後の10を子どもにやらせることで「できた」という成功を体験することができます。こうした小さなことの積み重ねが大切なかもしれません。

失敗に寄り添ってくれる人がいる

中学生のBくんは、楽しくなると、しばしばお調子者になってしまいます。その日も、合唱コンクールの練習中に、友達とついふざけすぎてしまいました。



クラスメイト数人から「練習の邪魔をしている」と言われ、Bくんは自分の言動が周りに迷惑であったことに気が付きました。しかし、素直に非を認められず、対立してしまいました。Bくんはクラスでの居心地が悪くなり、学校に遅刻することが増えていました。



そんな中でも遊び仲間のCくんは、それまで同様に一緒に過ごしてくれました。「お前頑固だよな、俺ならさっさと謝っちゃうのに」とCくんが何の気なしに話したことに、Bくんははっとしました。また、Bくんの様子を心配した担任の先生が「君が謝りたいと思うのなら協力するよ」と言ってくれ、Bくんはクラスのみんなに謝ることに決めました。



Bくんは、この春から高校生になります。「あの時Cくんや先生と話し、失敗してもそれを修復する方法があることに気が付くことができた。」とBくんは話してくれました。Bくんにとって貴重な体験になったようです。



解説

人が生きていく中で、失敗してしまうことがあります。そんなときに寄り添ってくれる人がいるというのは大切なことです。失敗、つまり予想外で望ましくない異常事態に対し、普段と変わらず安定した関係でいられる人がいることで、混乱し苦悩している状態からより早く脱し、失敗を成長の糧にすることができます。

今回の例では、友達や担任の先生がやさしく寄り添っていました。それ以外にも、ご家族や相談機関の支援者、そして地域の方など、ご本人にとって「この人には失敗を話せる」「いつも変わらずに受け止めてくれる人だ」と感じられる方であれば、どなたでも支えになることができます。成功のため工夫や努力を促すことも大切ですが、気負いなく、継続的に、そして時にはバトンタッチしながら失敗に寄り添うことも支援の重要な側面と言えます。